

年金の福祉還元事業に関する検証会議	資料2
平成17年3月8日	

# 「検証検討項目」について

グリーンピア事業に関する各委員の発言内容の整理

1. 年金の福祉還元事業（大規模年金保養基地（グリーンピア）事業、年金福祉施設事業、年金住宅融資事業）に関する政策決定過程において、厚生労働省及び社会保険庁は時代の変化に適切に対応できていたか。

具体的検証項目	第2・3回検証会議における各委員の関連発言内容
<p>年金の福祉還元事業に関する政策目的の妥当性について、どのように考えるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 労働者年金保険法の中に、被保険者とか受給者のための福祉施設についての根拠が法律に書かれているのは大変興味深い。<u>最初から長期保険であるがゆえに、被保険者の生活安定のために（保険料が）利用されてもいいということ</u>を意味するような条文があったということ。</li> <li>○ 年金福祉関連事業というのは、質がいいというか、最初からそういう政策目的をきちんと明示しながら展開してきた。なおかつ、<u>被保険者に対しての福祉あるいは還元という意味合いからしても、少なくとも途中までは成果を上げ得たと一応評価しておきたい。</u></li> <li>○ ほかの役所の様々な事業に比べて、なぜ厳しい批判にさらされているか、あるいは、さらされてきたかといえば、やはり国民の年金資金という、<u>国民にとってみると自分の老後の支えとなるべき資金がつまみ食いされたのではないかという疑念が常につきまとっている。</u>そういったようなことは許し難いことであり、<u>些細なことでも敏感に反応するものであるという点の認識が、もともと欠けていたと言えるのではないか。</u></li> <li>○ いろいろな役所の方と会うと、この問題についての理解がされていない。比較すべき人たちにも適切な情報がいない。<u>国民に対しての説明もすごく大事であるが、政府関係の人たちも意外と、施設を設置した経緯がわかっていないので、どういう経緯でやったかということはきちんと説明しておくことが必要。</u></li> </ul>
<p>年金の福祉還元事業は、その政策目的を達成するための手段として妥当であったか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年金の福祉還元事業が、当時の時代背景の下で必要とされていたというのは分かる。ただ、年金福祉還元事業の利益にあずからず、少子高齢化によって年金財政が極めて逼迫し、年金保険料が上がる一方、年金受給開始年齢はだんだん上がっていく、受給額も減っていくという世代に属する者から見れば、<u>グリーンピア事業は必要であったのかもしれないが、本当に適当な場所に適当な規模と予算で作られたものなのかどうか、疑問がある。</u></li> </ul>

	<p>○ 被保険者に対する福祉還元ということで、年金の納付意欲を高めることをかなり大きな目的に掲げられているので、現役の保険料を支払っている世代が主として対象になっている計画なのかと思ったら、そうでもなく、年金の受給者のレジャー施設が主な計画対象だったという気もするので、<u>本当に必要なものを必要な場所に作ったのかどうかという検証がなされるべきではないか。</u></p>
<p>個別事業において、立地場所の選定や建物の設置は適切に行われたか。また、施設運営の効率化にどのように取り組んできたか。</p>	<p>○ <u>グリーンピアについては、全国画一方式ということに問題があるのではないか。</u> こういう事業の場合は、テストをしながら、実験的に進めていく方式も必要だったのではないか。</p> <p>○ <u>グリーンピアの設置については、多くの県から要望があった中で選ばれたが、どのようにして選んだのかがよく分からない。</u> 国会質問などでは、厚生大臣、元厚生大臣の出身地が選ばれているのではないかという指摘もあったが、どういう基準で選ばれたのかが分からない。また、<u>それぞれの施設に投下された資金に多寡があると思うが、なぜそれだけの事業規模になって、それぞれに差があるのかもよく分からない。</u></p> <p>○ <u>グリーンピアの候補地の選定経緯は分かるが、政治家の圧力がかかわっていないとは思えない。</u> 四国にいくつも橋がかかったり、ある県の道路の設置状況が全国平均のレベルをはるかに凌駕してすばらしかったりということが往々にしてあるので、選ばれた施設の地元を地盤とする政治家はどんな人がいたのかを見ていくと、何かかわりが出てくるような気もしないでもない。</p> <p>○ <u>グリーンピア等の関連法人のスタッフとしては、公的年金制度について経験があり、ある程度の専門的知識をもつ者が一定割合いないと、素人ばかりでは運営が大変なのではないか。</u> 厚生労働省出身者が何パーセントというのは、こういう法人を設立するときに必要な条件ではないか。経験があり、しかもかなりの専門家が一定比率いないと、かえって効率的な運営ができないのではないか。</p> <p>○ <u>グリーンピアの運営主体である財団は、民とは言えない。</u> <u>そこが運営していると、効率化はあまり確保できない。</u> 必ずしも純粹の民でなくてもいいが、そういう仕組みができていところが運営をやっていたのか。</p> <p>○ <u>グリーンピアの運営について、委託契約がいくつか重なって存在するところは、なぜこのように再委託する必要があったのか。</u> <u>こういう機関が間にいくつも入れれば入るほど無駄なコストがかかるだろうし、その必要性について若干問題視されるところがある。</u></p>

<p>その後の社会環境の変化をどのように認識していたか。また、変化の兆候を把握するモニタリングができていたか。</p>	<p>○ <u>行革の大きな流れを審議会がどう受け止めるかについては、非常に消極的な感じがする。審議会では、あまりにも福祉施設や年金業務に関する審議がなく、事務局も用意しない。昭和50年代半ばには、撤退の議論が出ていてもよかつたのではないか。</u></p>
<p>得られた兆候や情報の活用ができていたか。</p>	<p>○ <u>平成5年の年金審議会の意見書は、昭和40年代と全く変わらない認識であり、かなり問題。世の中の流れがはっきりしているにもかかわらず、誰も気が付いていなかったのだという気がする。政府、あるいは厚生労働省、社会保険庁だけの問題ではない。福祉施設等はまだまだ充実させるという雰囲気の中では、事務局も動きがとれなかったのではないか。</u></p>
<p>情報を把握して政策を変更するきっかけはあったか</p>	
<p>状況の変化やきっかけがあったにも拘わらず、なぜ、政策が変わらなかったのか。</p>	<p>○ <u>厳しい言い方をすると、もともとブレーキのない車で走っているのが行政、民間は、採算がとれなければ、倒産という破局を迎える。それが大きな歯止めとなって、事業の見直し、撤退、様々な企業ビヘイビアが行われるが、行政に関連する事業においては、マスコミ流の表現をすれば、親方日の丸的な考えで、例えば倒産して路頭に迷うという恐怖感ももともとない。</u></p> <p>○ <u>もうそろそろ撤退に入るべき時期だという判断は、多分その当時の皆さんがされていたと思うが、判断と決断とは違う。決断するシステムがもともとなかったと言わざるを得ない。システム的な問題であり、官僚、個々人に、あのときなぜ決断できなかったのかというのは酷ではないか。</u></p> <p>○ <u>行政が持っている本来的な一つの限界というものが当然ながら反映しており、これからブレーキをつける努力をしない限り、同じような形でいろいろな問題が次々に起こってくる。</u></p> <p>○ <u>年金の資金が財政的に厳しくなったときに、きちんとした形で規律が働くようなシステムないしメカニズムがなかなか作動しなかったのではないか。</u></p>

2. 上記検証結果を踏まえ、今後の厚生労働行政の政策決定のあり方をどのように見直すべきか。

第3回検証会議における各委員の関連発言内容

- 大臣から潮目を見誤ったのではないかと御発言があったと思うが、それはなぜなのか。そういう観点から見ると、潮目を見誤らないようにするためにどのようにすればいいか。それが今後の厚生労働行政の政策決定のあり方の見直しに資する回答になるのではないか。
- どういう形で効くブレーキをつくるのか、それを提言するのがこの会議の最終的な使命。
- 年金の資金が財政的に厳しくなったときに、それに対してきちんとした形での規律が働くようなシステムないしメカニズムがなかなか作動しなかったという気がする。どういう形でそれを考えていくかが、この会議の最終的なミッションになるのかという感想。

## 年金の福祉施設に関する各委員の発言内容の整理

### 1. 年金の福祉還元事業（大規模年金保養基地（グリーンピア）事業、年金福祉施設事業、年金住宅融資事業）に関する政策決定過程において、厚生労働省及び社会保険庁は時代の変化に適切に対応できていたか。

具体的検証項目	第3回検証会議における各委員の発言内容
<p>年金の福祉還元事業に関する政策目的の妥当性について、どのように考えるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 労働者年金保険法の中に、被保険者とか受給者のための福祉施設についての根拠が法律に書かれているのは大変興味深い。<u>最初から長期保険であるがゆえに、被保険者の生活安定のために（保険料が）利用されてもいいということの意味するような条文があったということ。</u></li> <li>○ 年金福祉関連事業というのは、質がいいというか、最初からそういう政策目的をきちんと明示しながら展開してきた。なおかつ、<u>被保険者に対しての福祉あるいは還元という意味合いからしても、少なくとも途中までは成果を上げ得たと一応評価しておきたい。</u></li> <li>○ ほかの役所の様々な事業に比べて、なぜ厳しい批判にさらされているか、あるいは、さらされてきたかといえば、やはり国民の年金資金という、<u>国民にとってみると自分の老後の支えとなるべき資金がつまみ食いされたのではないかと</u>いう疑念が常につきまとっている。そういったようなことは許し難いことであり、<u>些細なことでも敏感に反応するものであるという点の認識が、もともと欠けていたと言えるのではないか。</u></li> <li>○ いろいろな役所の方と会うと、この問題についての理解がされていない。比較すべき人たちにも適切な情報がっていない。<u>国民に対しての説明もすごく大事であるが、政府関係の人たちも意外と、施設を設置した経緯がわかっていないので、どういう経緯でやったかということはきちんと説明しておくことが必要。</u></li> </ul>
<p>年金の福祉還元事業は、その政策目的を達成するための手段として妥当であったか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年金福祉施設事業は、範囲がかなり広い。<u>病院と、ほかのスポーツ振興とか健康増進、余暇利用、生きがい増進の施設とは若干性格が異なるという気がする。</u></li> <li>○ <u>保険料は、みんなが拠出した一種の社会的な貯蓄であるから、それを有効に活用することについて、被保険者とか受給者がどう考えているかを把握することも重要だったのではないか。</u>すなわち、被保険者や受給者の意向を反映するような社会的貯蓄の有効な活用についての検討が必要であった。</li> <li>○ 本来、年金福祉事業は世間から指弾を受けるような事業ではなかったが、今、ここに至って過去を評価すると、様々な</li> </ul>

	<p>問題もある。印象としては、<u>いくら何でも数が多すぎたという実感。</u></p> <p>○ <u>年金福祉施設事業の成り立ちについては、それぞれ必要性があり、根拠もあって実施されてきたことは、理解できるが、その後、社会情勢が変わり、年金福祉施設等の見直しに関する提言が昭和 60 年代以降、各方面から指摘されており、その後の対応については非常に問題がある。</u></p>
<p>個別事業において、立地場所の選定や建物の設置は適切に行われたか。また、施設運営の効率化にどのように取り組んできたか。</p>	<p>○ <u>本来、年金福祉事業は世間から指弾を受けるような事業ではなかったが、今、ここに至って過去を評価すると、様々な問題もある。印象としては、いくら何でも数が多すぎたという実感。</u></p> <p>○ 行政に対する影響力の大きさでは、最も大きいのは、やはり立法府、国会及び政治家の動き、言動、意向ではないかと推察。<u>我々の検証作業は、立法府とのかかわりがかなり重要な部分を占めるのではないか。</u></p>
<p>その後の社会環境の変化をどのように認識していたか。また、変化の兆候を把握するモニタリングができていたか。</p>	<p>○ <u>保険料は、みんなが拠出した一種の社会的な貯蓄であるから、それを有効に活用することについて、被保険者とか受給者がどう考えているかを把握することも重要だったのではないか。すなわち、被保険者や受給者の意向を反映するような社会的貯蓄の有効な活用についての検討が必要であった。</u></p>
<p>得られた兆候や情報の活用ができていたか。</p>	<p>○ <u>もう少し早い段階で施設の部門別収支などの経営分析を行い、事業内容に無駄があるのであれば、見直すべきだったし、収支均衡の見込みがあるかどうかという判定をもっと早く分析すべきだった。</u></p> <p>○ <u>制度共通の福祉施設に対しては、委託費が交付され、講座の受講料などが、近くの類似施設よりもかなり低く設定されていたとか、委託費の額が一律であるという点が妥当かどうかについて、もっと早く検討されるべきだった。</u></p> <p>○ <u>それぞれの指摘が社会情勢に対してちょっと遅れたような指摘なのか、それを十分にやらなかったのが次々と厳しい指摘が来て、最後は統廃合、売却の話になったのか。指摘を見ているとそれぞれ納得がいくようなものなので、その対応をきちんとやっていけば、もうちょっと適切な、現在においても対応ができたのではないかという印象を受ける。</u></p> <p>○ <u>年金福祉施設事業の成り立ちについては、それぞれ必要性があり、根拠もあって実施されてきたことは、理解できるが、その後、社会情勢が変わり、年金福祉施設等の見直しに関する提言が昭和 60 年代以降、各方面から指摘されており、その後の対応については非常に問題がある。</u></p>
<p>情報を把握して政策を変更するきっかけはあったか</p>	

<p>状況の変化やきっかけがあったにも拘わらず、なぜ、政策が変わらなかったのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 厳しい言い方をすると、<u>もともとブレーキのない車で走っているのが行政、民間は、採算がとれなければ、倒産という破局を迎える。それが大きな歯止めとなって、事業の見直し、撤退、様々な企業ビヘイビアが行われるが、行政に関連する事業においては、マスコミ流の表現をすれば、親方日の丸的な考えで、例えば倒産して路頭に迷うという恐怖感ももともとない。</u></li> <li>○ <u>もうそろそろ撤退に入るべき時期だという判断は、多分その当時の皆さんがされていたと思うが、判断と決断とは違う。決断するシステムがもともとなかったと言わざるを得ない。システム的な問題であり、官僚、個々人に、あのときなぜ決断できなかったのかというのは酷ではないか。</u></li> <li>○ <u>行政が持っている本来的な一つの限界というものが当然ながら反映しており、これからブレーキをつける努力をしない限り、同じような形でいろいろな問題が次々に起こってくる。</u></li> </ul>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>年金制度を若い層が理解し、身近に感じることはすごく大事。そういう点で何らかの工夫があって、年金の施設であることを利用する人たちにわかってもらうような、そういう工夫があった方がよかったのではないか。</u></li> <li>○ <u>若い層に還元する施策は全くなしでいいのか、それをある程度残しながら見直しを行っていくことがいいのか。やはり被保険者がどう考えているか、特に若い層の被保険者がどう考えるのかというか、そちらへの影響も少し考える必要があるのではないか。</u></li> </ul>

2. 上記検証結果を踏まえ、今後の厚生労働行政の政策決定のあり方をどのように見直すべきか。

<p>第3回検証会議における各委員の関連発言内容</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>大臣から潮目を見誤ったのではないかという御発言があったと思うが、それはなぜなのか。そういう観点から見ると、潮目を見誤らないようにするためにはどのようにすればいいか。それが今後の厚生労働行政の政策決定のあり方の見直しに資する回答になるのではないか。</u></li> <li>○ <u>どういう形で効くブレーキをつくるのか、それを提言するのがこの会議の最終的な使命。</u></li> <li>○ <u>年金の資金が財政的に厳しくなったときに、それに対してきちんとした形での規律が働くようなシステムないしメカニズムがなかなか作動しなかったという気がする。どういう形でそれを考えていくかが、この会議の最終的なミッションになるのかという感想。</u></li> </ul>



年金住宅融資事業に関する各委員の発言内容の整理

1. 年金の福祉還元事業（大規模年金保養基地（グリーンピア）事業、年金福祉施設事業、年金住宅融資事業）に関する政策決定過程において、厚生労働省及び社会保険庁は時代の変化に適切に対応できていたか。

具体的検証項目	第2・3回検証会議における各委員の関連発言内容
<p>年金の福祉還元事業に関する政策目的の妥当性について、どのように考えるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 労働者年金保険法の中に、被保険者とか受給者のための福祉施設についての根拠が法律に書かれているのは大変興味深い。<u>最初から長期保険であるがゆえに、被保険者の生活安定のために（保険料が）利用されてもいいということの意味するような条文があったということ。</u></li> <li>○ 年金福祉関連事業というのは、質がいいというか、最初からそういう政策目的をきちんと明示しながら展開してきた。なおかつ、<u>被保険者に対しての福祉あるいは還元という意味合いからしても、少なくとも途中までは成果を上げ得たと一応評価しておきたい。</u></li> <li>○ ほかの役所の様々な事業に比べて、なぜ厳しい批判にさらされているか、あるいは、さらされてきたかといえば、やはり国民の年金資金という、<u>国民にとってみると自分の老後の支えとなるべき資金がつまみ食いされたのではないかと</u>いう疑念が常につきまとっている。そういったようなことは許し難いことであり、<u>些細なことでも敏感に反応するものであるという点の認識が、もともと欠けていたと言えるのではないか。</u></li> <li>○ いろいろな役所の方と会うと、この問題についての理解がされていない。比較するべき人たちにも適切な情報がいない。<u>国民に対しての説明もすごく大事であるが、政府関係の人たちも意外と、施設を設置した経緯がわかっていないので、どういう経緯でやったかということはきちんと説明しておくことが必要。</u></li> </ul>
<p>年金の福祉還元事業は、その政策目的を達成するための手段として妥当であったか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>年金住宅融資事業は、被保険者のウェルフェアを高める点で大いに寄与してきた。当時は民間の金融機関の住宅資金を借り入れることは非常に困難であり、その穴を公的資金でかなり埋めたという意味で非常に歓迎すべき事業だった。</u>しかし一般には、住宅貸付が果たしてきた個人や経済への影響はそれほど知られていない。</li> <li>○ <u>年金住宅融資事業は、全体的に言えば、資金運用ではそれほど悪くはなかったのではないか。</u></li> </ul>

<p>個別事業において、立地場所の選定や建物の設置は適切に行われたか。また、施設運営の効率化にどのように取り組んできたか。</p>	
<p>その後の社会環境の変化をどのように認識していたか。また、変化の兆候を把握するモニタリングができていたか。</p>	<p>○ <u>年金住宅融資事業は評価したいが、民間部門がどんどん進出し、経済社会に大きな変化があったので、もっと適切な対応を考えるべきだったという点は、グリーンピアと同じだと思う。</u></p> <p>○ <u>年金住宅融資の場合は、競争の中で状況を変えてきて、それが鮮明に現われて、それに対する対応というのがかなり効いてきたのではないかと。逆に言うと、市場のシグナルが少ないところでは舵とりが難しかった、ということも言える。</u></p>
<p>得られた兆候や情報の活用ができていたか。</p>	<p>○ <u>融資制度自体が社会的に評価されているからこそ、いま批判されていないのだと思うので、年金住宅融資は相当な期間にわたって社会的使命を果たしてきた制度だと思う。ただ、<u>昨今、民間の金融機関も住宅ローンの金利が非常に低下し、年金住宅融資を受けた方々が民間の金融機関に借り換えをするような事態に立ち至った段階においては、もう使命を終えたので、制度を廃止するというだけのことではないか。</u>だから、これについてそんなに細かく議論する必要はないのではないかと。</u></p> <p>○ <u>低額所得者に対しては、年金住宅融資制度では必ずしもなく、他の制度でやればいいので、制度としては役割は終わった。将来、景気対策や低額所得者に対する住宅融資は別に行われると思われるので、これはやめてしまってもそんなに問題ない。</u></p>
<p>情報を把握して政策を変更するきっかけはあったか</p>	

<p>状況の変化やきっかけがあったにも拘わらず、なぜ、政策が変わらなかったのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 厳しい言い方をすると、<u>もともとブレーキのない車で走っているのが行政、民間は、採算がとれなければ、倒産という破局を迎える。それが大きな歯止めとなって、事業の見直し、撤退、様々な企業ビヘイビアが行われるが、行政に関連する事業においては、マスコミ流の表現をすれば、親方日の丸的な考えで、例えば倒産して路頭に迷うという恐怖感ももともとない。</u></li> <li>○ <u>もうそろそろ撤退に入るべき時期だという判断は、多分その当時の皆さんがされていたと思うが、判断と決断とは違う。決断するシステムがもともとなかったと言わざるを得ない。システム的な問題であり、官僚、個々人に、あのときなぜ決断できなかったのかというのは酷ではないか。</u></li> <li>○ <u>行政が持っている本来的な一つの限界というものが当然ながら反映しており、これからブレーキをつける努力をしない限り、同じような形でいろいろな問題が次々に起こってくる。</u></li> <li>○ <u>年金の資金が財政的に厳しくなったときに、きちんとした形で規律が働くようなシステムないしメカニズムがなかなか作動しなかったのではないか。</u></li> </ul>
----------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 上記検証結果を踏まえ、今後の厚生労働行政の政策決定のあり方をどのように見直すべきか。

<p>第3回検証会議における各委員の関連発言内容</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>大臣から潮目を見誤ったのではないかという御発言があったと思うが、それはなぜなのか。そういう観点から見ると、潮目を見誤らないようにするためにはどのようにすればいいか。それが今後の厚生労働行政の政策決定のあり方の見直しに資する回答になるのではないか。</u></li> <li>○ <u>どういう形で効くブレーキをつくるのか、それを提言するのがこの会議の最終的な使命。</u></li> <li>○ <u>年金の資金が財政的に厳しくなったときに、それに対してきちんとした形での規律が働くようなシステムないしメカニズムがなかなか作動しなかったという気がする。どういう形でそれを考えていくかが、この会議の最終的なミッションになるのかという感想。</u></li> </ul>